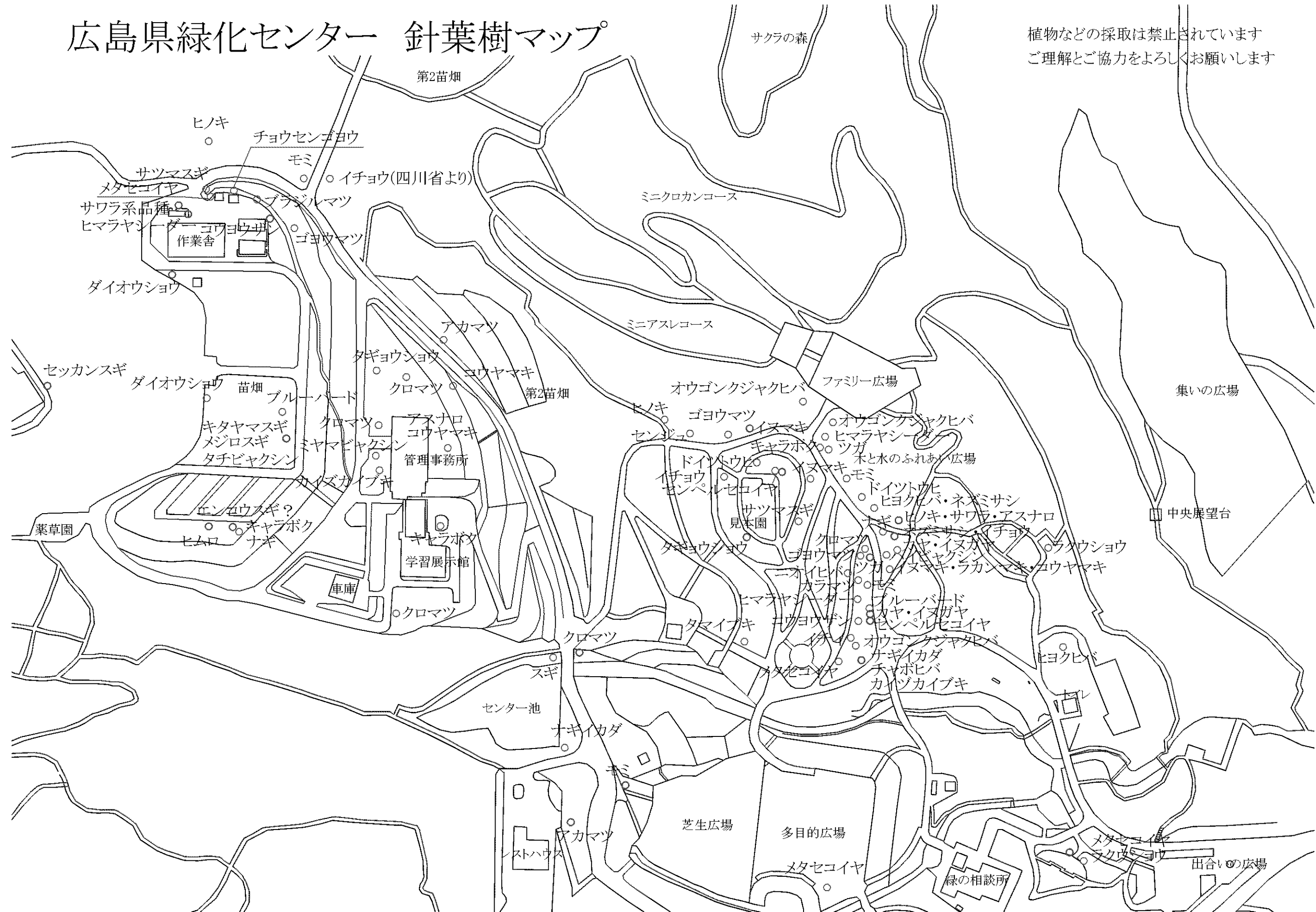


広島県緑化センター 針葉樹マップ

植物などの採取は禁止されています
ご理解とご協力をよろしくお願いいたします



第2苗畑

ヒノキ

チョウセンゴヨウ

モミ

イチョウ(四川省より)

サツマスギ

メタセコイヤ

サワラ系品種

ヒマラヤシダー

作業舎

ゴヨウマツ

ダイオウショウ

セツカンスギ

ダイオウショウ

苗畑

ブルーバード

タギョウショウ

アカマツ

コウヤマキ

第2苗畑

キタヤマスギ

メジロスギ

タチビャクシン

クロマツ

ミヤマビャクシン

アスナロ

コウヤマキ

管理事務所

センノウスギ?

ヒムロ

キヤラボク

ナギ

薬草園

車庫

キヤラボク

学習展示館

クロマツ

クロマツ

スギ

センター池

オギイカダ

アカマツ

レストハウス

芝生広場

多目的広場

メタセコイヤ

緑の相談所

メタセコイヤ

サワラ系品種

出合の広場

サクラの森

ミニクロカンコース

ミニアスレコース

オウゴンクジャクヒバ

ファミリー広場

ヒノキ

ゴヨウマツ

センジュ

ドイツウレ

イチョウ

センペルセコイヤ

見本園

タギョウショウ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

オウゴンクジャクヒバ

集いの広場

中央展望台

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

オウゴンクジャクヒバ

ヒマラヤシダー

メタセコイヤ

サワラ系品種

メタセコイヤ

サワラ系品種

針葉樹一覧表

植物名	科名	属名	別名	解説
イチヨウ	イチヨウ	イチヨウ	ギンギョウ	古くに中国から輸入。花は雌雄異株で4~5月に葉の展開と同時に開花。受粉時に精子を出すことを日本の学者が発見。秋の黄葉が美しく、種子はギンナンとして食用。大木になると乳と呼ばれる気根も見られる。
カヤ	イチイ	カヤ	ホンガヤ	まれに林内に自生している常緑針葉高木。葉は針状で細く硬くどがり手で触れると痛い。材は碁盤として一級品である。花は雌雄別株で5月頃開花。種子から油をとり食用や灯火用として用いられた。
イチイ	イチイ	イチイ	オンコ・アララギ	葉が左右に水平につく。不規則に放射状につくのがキアラボクといわれるが区分するのは難しい。幹は直立し高木になる。果実の外周(仮種皮)は可食。葉は柔らかくにぎっても痛くない。葉の幅は1.5~2mm。
キアラボク	イチイ	イチイ	キアラ・ダイセンキアラボク	葉が放射状につく。左右に水平につくのはキアラボクといわれるが区分するのは難しい。幹の株からよく分枝して広がり高くはならない。葉の幅は2~3mmでイチイよりやや広く、厚みがある。高さ1~2mの低木。
イヌマキ	マキ	マキ	クサマキ・ホンマキ・マキ	葉は互生で長さ10~15cmの広線形で裏面の主脈が目立つ。葉先が垂れることが多く、白みはほとんどない。下枝は斜めに垂れる事がある。花は雌雄異株で5~6月に開花。種子は10~12月に果床が赤紫色に熟し食べられる。
ラカンマキ	マキ	マキ		葉は、長さ4~8cmとイヌマキ(10~15cm)より短く幅が狭い。にぎっても痛くない。枝は上向きで垂れることはない。果実はイヌマキよりやや小さく、果托は赤く熟す。種子は青緑色で白粉をかぶる。
ナギ	マキ	マキ	コソウナカセ・チカラシバ	県内に自生はない。お寺、神社、公園等に植栽されている。種子からとった油は神社の灯火用に使われていた。寒さに弱い。イチヨウと同じく中広の葉は針葉樹として異例で、節ごとに90度ずつ葉がねじれている。
イヌガヤ	イヌガヤ	イヌガヤ	ヘダマ・ヒノキダマ・ヘボガヤ	葉など外見がカヤに似るが先端はカヤのように硬質ではない。種子(胚乳)から油をしぼり、燈火、整髪に用いる。葉は左右に2列並んでつき、裏面は白い気孔帯が2本ある。
ウラジロモミ	マツ	モミ	ダケモミ・ニッコウモミ	上部の葉や光が当たる場所の葉はらせん状に付ける。葉は長さ1cmほどの線形で表面は濃緑色、裏面は2本の幅の広い白色帯がある。花は雌雄同株で6月頃開花し 球果は紫色を帯びた褐色。冬芽はヤニに覆われている。
モミ	マツ	モミ	モミン	大きいもので高さ25~40m、直径1~2mになる。葉は先端が二裂状にどがり、基部には狭くなり葉痕はまるい。欧州では神聖木とし、ドイツでは悪霊除けの風習のほか、クリスマスツリーにも利用。樹形は円錐形になる。
ツガ	マツ	ツガ	トガ	県西部(宮島大元公園の自生は珍重)の山地にまれに自生。モミより葉が小型で、球果も小型。葉裏には2本の白い気孔帯があり、短い葉柄に対し葉は直角に開く。コマツガの若い枝は有毛であるが、本種は無毛である。
ドイツトウヒ	マツ	トウヒ	ヨーロッパトウヒ・オウシュウトウヒ	ヨーロッパ原産で明治中期に渡来。老木になると枝が垂れ下がる。球果はトウヒ属のなかで最も大きく、長さ10~20cm、直径3~4cmの円柱形~長楕円形で10月頃に熟す。鳩時計の鎖の錘はこの球果をかたどったもの。
ヒマラヤシーダー	マツ	ヒマラヤスギ	ヒマラヤスギ	ヒマラヤ地方原産、明治時代に導入され、公園などに植栽されている。高さ25mで自然樹形は円錐形になり、樹形が美しいことでウヤマキ、ナンヨウスギと共に世界三大庭園樹と呼ばれる。ヒマラヤスギの名もあるが、マツの仲間になる。
チョウセンゴヨウ	マツ	マツ	チョウセンマツ	葉は、五小葉で長さ8~10cm、先端はどがりがやや柔らかく、にぎっても痛くない。球果は日本の中で一番大きく、長さ9~15cm、直径5~7cmの卵形で開花(6月)した翌年の10月頃に熟す。種子は「マツノミ」として食用。
ゴヨウマツ	マツ	マツ	ヒメコマツ・マルミゴヨウ	西中国山地の溪谷、岩峰にまれに自生する。公園、庭園、学校等に植栽。特に盆栽樹として有名(宮島五葉)。葉は五葉性で先端は尖るが痛くない。球果は5~7cm、直径4cmの卵形で翌年の10月頃に熟す。
アカマツ	マツ	マツ	メマツ・オンナマツ	広島県を代表する樹木である。マツタケと共生することも有名である。北海道・青森を除く全国でマツノザイセンチュウ病(マツクイムシ)の害により枯れており、問題となっている。材は建築用、燃料用として広く、多く利用されている。
タギョウショウ	マツ	マツ	ウツクシマツ	アカマツの品種。根元から多数の枝を出すのが特徴。自生しているウツクシマツより枝の広がる角度が大きく、庭園などに利用されている。滋賀県甲西町的美松山に自生しているウツクシマツは天然記念物に指定されている。
クロマツ	マツ	マツ	オマツ	海岸に多く潮風に強い。防風林として植栽されたものも多く、日本の美しい海岸の風景でもある。(白砂青松)。アカマツより葉が太く、樹皮が黒く、冬芽の鱗片は白い。県内では昭和40年代以降、マツクイムシ被害が続いている。
ダイオウショウ	マツ	マツ	ダイオウマツ	北アメリカ東海岸地方原産で高さ25mになる。葉は暗緑色で細長く、3本ずつ密生して垂れ下がり、40~60cmになる。世界のマツの仲間でも最も長い葉で、日本在来種のマツとは全く異なる。球果は長さ15~25cmになる。
カラマツ	マツ	カラマツ	フジマツ・ニッコウマツ	日本特産の落葉針葉樹で日当たりのよい深山に生える。宮城県蔵王山~石川県白山に自生し、晩秋の黄葉・芽吹きは見事である。北海道・東北・長野などで植林されている。短枝と長枝があり、葉は長枝に単生し短枝に束生する。花は短枝につく。
スギ	スギ	スギ		日本を代表する建築材で、本県でも過去造林が盛んに行われた。春先の花粉が「花粉症」の原因と話題になる。おおざっぱに太平洋側のオモテスギ、日本海側のウラスギに分かれ(気候品種)、地域ごとにさらに形質が異なり多品種である。
エンコウスギ	スギ	スギ		スギの園芸品種で高さ3~5mになる。枝に短い葉だけ付く所と長い葉だけ付く所が交互にあり、その様子をテナガザルの腕に見立てて猿猴杉の名がつけられた。庭木や花材などに使われる。
メジロスギ	スギ	スギ		高さは3mほどになる。杉の園芸品種。和名は、葉先に白い斑があり、葉先が白く見えることによる。葉は短くて細い。半日陰地で適潤地を好む。白い斑入りのものには、このほかセッカンスギ(雪冠杉・小高木になる)、フリスギがある。
セッカンスギ	スギ	スギ		新梢が雪をかぶったように白色あるいは乳白色しており、生育が遅く樹高は3~5m、樹形は円筒形。夏以降は徐々に緑色となり、冬は赤褐色あるいは茶褐色となる。
キタヤマスギ	スギ	スギ		京都市北部地方(北山地方)で生産されてきた杉。磨き丸太として、室町時代から茶室や教習屋に重用された。京都市街の西北約20kmに位置する北山地方、現在の京都市北区中川を中心とする地域は、北山杉の産地として栄えた。
サツマスギ	スギ	スギ		
ハチロウスギ	スギ	スギ		廿日市市吉和:冠山の八郎谷周辺でみられる天然スギを「ハチロウスギ」と呼ぶ。現地には「おぼけスギ」と言われる大樹がある。古くは、奈良の東大寺再建の折には、県境付近のスギが多く使われたということである。
センペルセコイヤ	スギ	セコイア	セコイア・レッドウッド・セコイアメスギ・(イ)	アメリカ西海岸地方に自生し、一属一種の単型属。明治中期に輸入され各地に植栽。アメリカでは樹高が110mになるものがあり、寿命も長い。(世界最高樹高)。
コウヨウザン	スギ	コウヨウザン		中国台湾原産で江戸時代末期に渡来。葉はらせん状につき、葉裏には2本の白い気孔帯がある。長さ3~5cmで先はどがり、触ると痛い。材は耐蟻、耐水性は大きい、あまり利用されていない。名称は「広葉杉」の意味。
メタセコイア	スギ	メタセコイア	アケボノスギ	1941年三木茂博士により化石植物として発見命名され、1945年中国四川省(重慶)の揚子江流域で発見。小葉が対生、ラクウショウは互生。
ラクウショウ	スギ	ヌマスギ	ヌマスギ	アメリカ南部原産。沼地などでは周囲に呼吸根(膝根:しっこん)を地上に出すことが多い。和名は葉が水平に並んでつく枝を鳥の羽に見立て、枝ごと葉が落ちることから落羽松。ヌマスギは沼地などに生育するところから。
コウヤマキ	コウヤマキ	コウヤマキ	マキ	樹形が美しく、ナンヨウスギ、ヒマラヤシーダーと共に世界三大庭園樹と言われる。材は耐水性が極めて強く、古くから利用されている。遺跡等からよく出土している。和名は和歌山県の高野山に多いことになむ。
センジュ	ヒノキ	コノテガシワ		コノテガシワの園芸品種。幹が叢生して、全体に広円錐形になる。和名は手のように広がった枝がたくさんある姿による。樹形は剪定しなくても広い円錐形になる。葉は表裏の区別がはっきりしない。花は2~4月ごろ枝先につく。
ニオイヒバ	ヒノキ	クロベ		北アメリカ原産で明治中期に渡来。樹冠は、狭い円錐形~円柱形。樹皮は赤褐色で縦に裂けてはがれ、葉は長さ約4mmの鱗片状で光沢はあまりない。葉肉に香気が多く、葉をもむと甘い香りがする。
ラインゴールド	ヒノキ	クロベ		ニオイヒバの園芸品種。樹形は球状で、コニファー中唯一オレンジ黄の葉色を持つ品種。柔らかい葉で成長は遅く管理はほとんどいらない。年数が経つと自然と芯が伸び出して、冬は枯れた色に変色する。
アスナロ	ヒノキ	アスナロ	マキ	樹冠は円錐形で、高さ30mになる。葉は十字対生で鱗片状であり、厚く光沢がある。ヒノキやサワラより大きい。葉裏は白い大きな気孔帯が目立つ。明日ヒノキになろうからアスナロと言われるのは、俗説とされている。
ヒノキ	ヒノキ	ヒノキ		日本を代表する建築用材。鱗片葉の表面は濃緑色で光沢があり、先はどがらない。裏面の白色気孔船線はY字型になる。樹皮は赤褐色で灰色を帯びるものもある。和名は、火の木の意味で、大昔の人がこの樹をこすって火を出したことに由来。
チャボヒバ	ヒノキ	ヒノキ	カマクラヒバ	ヒノキの園芸品種。この名は、短い枝を脚の短いチャボにたとえたといわれている。別名:カマクラヒバとも呼ばれている。一般にヒノキより矮性で、枝が短く、扇状で密に分枝し、狭円錐形のまとまった樹冠になるため、庭木や盆栽として人気がある。
オウゴンヒバ	ヒノキ	ヒノキ	オウゴンチャボヒバ	ヒノキの園芸変種で、オウゴンチャボヒバとも呼ばれる。チャボヒバ(カマクラヒバ)の品種で、チャボヒバの葉が黄金色になったもの。
クジャクヒバ?	ヒノキ	ヒノキ		庭園木として作られたヒノキの園芸品種で、すべて植栽されたもの。常緑針葉高木。公園、庭園、学校等によく植栽されている。
オウゴンクジャクヒバ	ヒノキ	ヒノキ		ヒノキの園芸品種でクジャクヒバの仲間。新芽が黄金色で、特に葉色が秋から冬にかけて美しい品種。樹高は2~5mで長枝の両側の小枝が密に対生し、重ならず水平に並ぶ。和名は枝葉の形をクジャクの尾羽に見立てた。
サワラ	ヒノキ	ヒノキ		ヒノキによく似ているが葉裏の白い斑紋がY字型ではなくX型で鱗片葉の表面は薄緑色で光沢はなく、先はどがる。樹皮はやや灰色を帯びた赤褐色。材は柔らかいが耐水性に優れ、湿気が多い桶、風呂桶等に利用される。
ヒヨクヒバ	ヒノキ	ヒノキ	イトヒバ	サワラの園芸品種。葉は細長いひも状に垂れ下がるのでイトヒバともいう。長いもので30cmぐらゐになる。同じ形のスイリュウヒバはヒノキの園芸品種。
オウゴンヒヨクヒバ	ヒノキ	ヒノキ	オウゴンイトヒバ	サワラの園芸品種。ヒヨクヒバ(イトヒバ)の葉が黄金色にしたもの。
ヒムロ	ヒノキ	ヒノキ	ヒムロスギ	サワラの変種の一つで自然界にはない。樹形、葉の色が美しいので公園、庭園に植栽。葉がサワラの幼苗の葉に似ており、青白緑色でやわらかい感じがする。
ブルーバード	ヒノキ	ヒノキ	ボールボード	サワラの園芸品種。樹形は円錐形になるが、幼木時は半球形である。葉色がやや青緑色をしており、針葉が湾曲して柔らかい感じがする。刈り込みに強く、いろいろな形に仕立てることが出来る。庭木や鉢物として利用される。
ネズミサシ	ヒノキ	ビャクシン	ネズ・ムロ・トショウ	成長がゆるやかで大木になりにくい。材は堅く腐れにくい。葉は先が尖り触ると痛い。長さ1~2.5cmの針状で、3輪生する。花は4月ごろ開花し、果実は翌年もしくは翌々年の10月頃に熟す。果実からは酒(ジン)の香料を取る。
カイヅカイブキ	ヒノキ	ビャクシン		イブキの園芸品種で庭木などに植えられている。排気ガスにも強く街路樹として一時期よく植えられた。刈り込むことで綺麗な生垣状になるが、強剪定をすると先祖唄りして、とげのあるスギ葉が出てくる。
タマイブキ	ヒノキ	ビャクシン		イブキの園芸品種。樹形が半球形になる性質で、花壇の縁取りや誘導樹として公園などに植えられる。花は4月に咲き、雌雄異株、まれに同株。球果は肉質で直径7~9mmのほぼ球形で、翌年の10月に黒く熟し白粉をかぶる。
タチビャクシン	ヒノキ	ビャクシン		
ハイビャクシン	ヒノキ	ビャクシン	ソナレ・イワダレネズ	イブキ(ビャクシン)の変種で老木になるとまれに鱗片状の葉がでる。日本の老岐・対馬・琉球諸島の海岸に自生。日当たりを好み、乾燥地に強く、瘠地にも育ち、寒さや潮風に強く、剪定にも耐える。庭園などの根柢に利用。
ミヤマビャクシン	ヒノキ	ビャクシン	シンパク	イブキ(ビャクシン)の変種。幹は地を這い斜上する多くの枝を出し、高さ50cmぐらゐになる。葉は鱗片葉が多く、下枝に針状の葉が混じりイブキに似ているが白っぽい。盆栽にしたものを横柏(しんぱく)と呼ぶ。
ミヤマビャクシン	ヒノキ	ビャクシン	シンパク	イブキ(ビャクシン)の変種。幹は地を這い斜上する多くの枝を出し、高さ50cmぐらゐになる。葉は鱗片葉が多く、下枝に針状の葉が混じりイブキに似ているが白っぽい。盆栽にしたものを横柏(しんぱく)と呼ぶ。
ブラジルマツ	ナンヨウスギ	ナンヨウスギ	ブラジルアラウカリア	ブラジル南部、アルゼンチン産の常緑高木で、樹高30m~60mになる。幹は真っ直ぐに伸び、太い枝を水平に出す。葉は披針形、革質で先端は鋭くとがり、幹にも針葉をつける。2~3年で種子が成熟し食用になる。